

名古屋の復元棚田の風景と生物多様性を次世代へ伝える

活動の場所

秦野市名古屋の復元棚田



活動目的

里地・里山の伝統的な農村風景の荒廃が続く中、丹沢ドンは丹沢山麓で地域の伝統文化の継承活動を続けてきた。20年前から始めた名古屋の棚田の復元・米づくり活動により生き物たちが蘇った。「丹沢自然塾」「丹沢こども自然塾」を開催して、米づくり・生物多様性の保全の担い手を育成し、多様な生き物たちと棚田の風景を次の世代に伝える活動を継続する。

活動内容

シンポ・学習会 丹沢ドンは1992年3月に発足。DONは、Do for Nature の略。丹沢の自然と都市の暮らしを考えるシンポジウム・学習会・山麓展などを開催して10年、その内容を「DONボックス」のブックレットとして刊行・発信。2001年9月に県の認証を得てNPO法人化。**棚田の復元活動** 02年より名古屋の荒廃棚田の復元活動を開始。人の侵入を拒む雑草地をカマ・クワで開墾。手作り堰堤で水位を上げ、水路を掘って田んぼに水を引き入れ、03年より復元棚田で地元農家の指導の元、米づくりを開始。04年より「丹沢自然塾」の塾生を毎年募集し、都市と丹沢山麓を結んで担い手を確保。**環境省モデル事業** その間、04年に環境省「里地里山保全再生モデル事業」に「秦野市等」で指定を受け、首都圏における保全再生活動が評価を得た。**生き物たちが甦る** 命の水は、米づくりに不可欠であると同時に、生き物たちの再生を促した。冬期湛水で秦野盆地の地下水の涵養を図り、溜め池、日寄せを作り通年の生き物たちの棲み処を確保。すると、かつて普通に全国で生息していたアカハライモリ、タイコウチ等の水生生物が多数蘇った。**生物多様性フォーラム** 16年10月、名古屋のドン会の棚田の原で「生物多様性緑陰フォーラム」を開催。鷲谷いずみ・東京大学名誉教授を講師に生態系保全の意義を学び、名古屋の生物多様性、次世代へ継承する活動の大切さを再確認。**自然調査・図鑑発行** 17年4月～20年3月の3年間に東海大学・慶應義塾大学に委託して名古屋の自然調査を実施。僅か5000㎡ほどのドン会活動地とその周辺で、植物252種、動物586種の合計838種を確認。20年8月に最終報告書が整い、この調査の成果を元に21年9月、『丹沢山ろく名古屋 棚田の生き物図鑑』を発行。**「ポスト棚田百選」選定** ドン会30周年、棚田の復元・米づくり20年の節目の22年2月、農林水産省の「ポスト棚田百選」＝「つなぐ棚田遺産～ふるさとの誇りを未来へ」に「名古屋の棚田群」として丹沢ドンの棚田が選定。3月、名古屋の自然調査報告会を兼ねた丹沢ドン会30周年記念フォーラム「名古屋の棚田と生き物たちを未来へ！」を開催。人と生き物たちの多様性を伝えるドン会40年に向け新たなスタートを切った。

PRしたいポイント

首都圏の緑の砦・丹沢の麓にある秦野市名古屋の復元棚田は、国道246号から僅か800mの谷戸にある。都市の暮らしと身近な自然を結び、有機・無農薬の米づくりを体験し、食文化を学ぶ絶好の位置。「丹沢自然塾」「丹沢こども自然塾」は、都市の子育て世代の親子やシニア世代の夫婦など、多様な年代層の市民が参加し、世代循環を促す。平らかな仲間と得意技を出し合って活動支え、生物多様性に富んだ棚田の保全と米づくりを維持し、未来の子どもたちへの継承活動に取り組んでいる。

活動効果、今後の展開 等

○丹沢自然塾による棚田の復元・米づくり活動は、環境省「里地里山保全再生モデル事業」全国4カ所の一つ。本年、農水省「つなぐ棚田遺産」に選定され社会的な評価を得た。里地里山の保全再生活動のネットワークの一翼を担うことができた。

○コロナ禍にあっても、美味しい水・空気・風が流れる名古屋の棚田は多様な人びとの居場所。土を耕し、自ら暮らし方・生き方を省み、汗を流す桃源郷。生物多様性に富んだ棚田の風景を今と未来の子どもたちに伝え続け、活動の輪を広げたい。

特定非営利活動法人自然塾丹沢ドン会

<http://www.donkai.com>